

そほう
組報

多摩

No.11

組報 多摩 No.11
 発行日 2011年11月1日
 浄土真宗本願寺派
 東京教区 多摩組
 事務所/圓福寺内
 東京都調布市国領町1-10-11
 〒182-0022 TEL042-482-7955
<http://www33.ocn.ne.jp/~tamaso/>



(京都西本願寺 御影堂)

親鸞聖人七百五十回大遠忌法要が厳修
 京都西本願寺

親鸞聖人七百五十回大遠忌法要の
 ご案内

平成二十三年四月より二十四年一月までの日程で、ご修復を終えた本願寺御影堂において、親鸞聖人七百五十回大遠忌法要が厳修されております。法要には全国から多くの門信徒が参拝され、賑々しくご修行されております、

残りの法要は、十一月九日～十六日の十六座、及び御正当の一月九日～十六日の十四座です。(御正当は毎年の御正忌講の日程作法)

また、関連行事として、本願寺門前町・龍谷ミュージアムなどで様々な記念行事が開催されております。

多摩組では、六月十二日～十四日に団体参拝を組織し法要に参拝致しました。

五十年に一度のご勝縁です。是非、法要にご参拝頂きますようご案内致します。

個人でご参拝の場合は、事前申し込みが必要ですので各ご寺院へご相談下さい。



親鸞聖人七百五十回大遠忌法要に
参拝して
(京都西本願寺)

誓願寺門徒 岩永節夫
いわなが せつお

六月十二日～十四日、約三百名の多摩組の皆さんと共に「親鸞聖人七百五十回大遠忌法要」に参拝致しました。

一日目、新幹線で京都まで行き、バスに分乗して京都市内を車窓見学。ご本山に着後、記念写真を撮影をして、大修復によつて綺麗になった御影堂に入堂、そしていよいよ法要です。

全国から参拝した三千五百人のお同行と一緒に、緊張の中、法要が始まりました。

法要に出勤する大勢の方々が色とりどりの法衣や衣装に身を包みます。大きな太鼓が鳴り響き、緊張が高まります。最後に新門さま、御導師の御門主さまが入堂され、参拝者全員でこの法要のために制定された「宗祖讃仰作法」をお勤め致しました。

読経後、布教使さんのご法話があり、最後に新門さま、御門主さまのご挨拶を賜りました。

御門主さまは、東日本大震災に大変心を痛めておられ、お念仏申す中でその思いを十分に分かち合いたいとお話しになり、大変感銘致しました。

二日目、ご本山のお晨朝に参拝。朝食後、ご本山の書院、飛雲閣、そして



国宝「唐門」

大遠忌に合わせて竣工した龍谷ミュージアムを見学。

龍谷ミュージアムでは、「釈尊と親鸞展」が開催されており、貴重な展示品を興味深く拝観致しました。

その後、豊臣秀吉の正室ねねが創建した高台寺付近にバスで移動、洒落たイタリア料理店で昼食を摂りました。高台寺付近は石畳が敷かれた風情のある町並みで、昼食後、皆思い思いに散策しました。

そして、高速道路を一路岐阜方面へ向け出発。最後の宿泊場所である岐阜・長良川温泉に宿泊しました。

長良川名物の鵜飼いを見学する人と、懇親会に参加する人とに別れ、それぞれに充実した時間を過ごしました。

三日目、高速道路を通過して世界遺産白川郷に移動。合掌造りの家々は大変趣があり、まるで別世界にいるようでした。養蚕で生計を立てていたという家の内部を見学させて頂き、その暮らしぶりを偲びました。また、村内にあった真宗大谷派明善寺に参拝し、一同で「重誓偈」をお勤め致しました。

帰路、飛騨高山やNHK「おひさま」の舞台となった安曇野・松本方面を抜けて、中央道で八王子方面に戻りました。

大変充実した、有意義な三日間でありました。この団参を企画して頂いた多摩組のご住職方に深く御礼申し上げる次第です。



白川郷の合掌造り

糧（かて）

西照寺住職 酒井 淳

今年四月より十年間をかけた「平成の大修復」でみごとに修復された御影堂において、親鸞聖人七百五十回大遠忌法要が厳修されています。大遠忌法要は四月九日から来月一月十六日まで八日間ずつ七期にわたり厳修されます。この法要期間中国内外より三十万を超える参拝者が参詣される見込みです。

多摩組は二十三ヶ寺のご参加をいただき門徒三百人とともに六月十二日ご法要に参拝させていただきました。当日は全国よりまた海外から集った三千人を超えるご門徒のご参詣の中がございました。

法要は大きな感動の中で勤められ、親鸞聖人の御影像を安置した御影堂はお念仏に包まれました。この法要でご門主より「このたびの東日本大震災に被災された方々の悲しみに寄り添い、思いを分かち合いたいとの願いをもって大遠忌法要をお勤めいたします」とのお言葉がございました。

三月十一日に起こった東日本大震災の後、被災された方々とともに力を合わせて復興に向けてがんばろうという気持ちでこめて「がんばろう東北」「がんばれ日本」という言葉が語られて、多くの人々が

被災地にボランティアで入り、実際に義捐金を届けました。本願寺でも現地対策本部を設けて震災直後より支援活動を続けています。

もうすでに震災から半年以上が経過しましたが、被災地の復興・復旧にはまだまだ時間が必要です。被災された方々はまだ「がんばり」続けてこられました。被災された方々の中には「もうがんばれない」と思われておられる方がおられるかも知れません。これからも復興・復旧にむけてご門主の願われた被災された方々の心に寄り添い支え続けることがお念仏のご縁をいたたい私たちに求められています。

京大の名誉教授の長谷正當氏の著作に「糧」ということについて次のように書いておられました。

『最大の思い違いは我々の身体が空気や食物を欠いては生きてはゆけないが、心はそのような空気や食物を必要とせず、栄養を補給することなしに生きてゆけるものと考ええる錯覚であろう・・・。実際のところ、身体だけが食物を摂るのではない。心も食物を必要としているのである』

人間は夢中で仕事をしているときに食事をとるのを忘れることがあります。しばらくはそれでがんばれるのですが、ずうっと食事をしなければ倒れてしまいます。これと同じように心にも栄養が必要だということです。確かに心に栄養を補給しないですが、しばらくは暫くはできるでしょうが、いずれ枯渇し心が折れてしまうでしょう。

長谷先生は心の糧とは「美から生じる歓び、他者から与えられる尊敬や愛情など」と書いておられます。

心に栄養がうまく供給されているときは心にゆとりが生まれます。困難な状況にもしなやかに対応できます。逆に栄養がうまく摂れずに枯渇していけば心は硬くなつていきます。心が硬く固まってしまうと、許容以上の負荷がかかると心が折れてしまいます。

「大無量寿経」の中に、心が柔軟になるという言葉があります。阿弥陀如来が常に常に私たちにかけて下さるお慈悲が心に栄養をもたし、心に潤いを与えて下さります。「がんばろう日本」み仏とともに。



仏教壮年会

多摩組仏教壮年会連盟理事長

五味新悟ごみしんご



仏壯連盟新理事長
五味新悟氏

多摩組仏教壮年会連盟の

あゆみと活動

仏壯連盟は、理事長野田和義氏（誓願寺）以下役員理事全員が三月末日に任期満了退任され、新たに十五ヶ寺二十二名の理事が就任し、理事長五味新悟（覚證寺）、副理事長萩原勝生氏（光源寺）、会計麻木純三郎氏（明西寺）、監査役香川武宣氏（覚證寺）が選出されました。

私は、歴代の役員理事の皆様が育んで来られた仏壯連盟を大切に引き継ぎ、役員理事の皆様とともに更なる発展を目指して参ります。皆様には、仏壯連盟の活動にご理解とご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

仏壯連盟は、連盟結成以前に、故石岡廣三氏（正善寺）が、長年一人で各寺院を回り壮年会の活性化を呼びかけた時代がありました。この時代、教区仏壯連盟に登録されていたのは、正善寺、明西寺、誓願寺の三カ寺でした。二〇〇一年二月の教区仏壯

連盟結成記念日研修会を都留組と合同で担当することになり、各寺院の門徒により実行委員会が組織されました。その後、この実行委員会を母体に、二〇〇四年四月、当時の伊東道雄組長（長専寺住職）と佐々木了宣相談員（明西寺住職）の肝いりで、仏壯連盟が結成され、大久保賢吉朗氏（明西寺）が初代理事長に就任されました。仏壯連盟の組織や規定は、この時整備されました。第二代理事長は野田和義氏で、その次が私です。現在、教区仏壯連盟に登録されているのは、前述の三カ寺と圓成寺、西照寺、覚證寺、延立寺の七カ寺です。

仏壯連盟の綱領を私なりに解釈致しますと「自らの信仰を深めるとともに、率先して住職に協力し、菩提寺の繁栄と教団の発展に寄与すること」であり、「季節の花々に彩られお線香の煙が絶えないお寺、お念仏や喋り声や笑い声が満ちあふれているお寺を目指すこと」です。かつて、小島の草庵には、親鸞聖人を慕う沢山の人が鼻めき、お念仏や笑い声の絶えることがなかったそうです。私は、一人一人がほんの少し努力すれば、きつといつかそのようになると考えています。菩提寺にお出でになる回数、少しでも増やしていただけないでしょうか。そして、住職や坊守や他の門徒の方々とお喋りなどで親交を深めていただきたいのです。そのようにして、門信徒活動が活発に行われるようになれば、その中から壮年会が自然発生するのではないのでしょうか。

本年度は、十二月十七日に、総代世話人

会と共催で仏教壮年研修会を開催致します。また、来年二月十八日・十九日に、教区仏壯連盟結成記念日研修会を開催致します。皆様には、ご多用中とは存じますが、多数ご参加下さいますようお願い申し上げます。

総代世話人会

いのうえ まさはる

多摩組総代世話人会 井上雅晴

昨年度の総代世話人研修会は八月に実行委員会の討議を経て、多摩組内寺院を訪問してその活動実態を拝見する事としておりました。

訪問寺院の選定に若干手間取り、今年に入って阿弥陀寺様が非常に特徴のある活動を積極的に行っておられる事が解り、五十嵐ご住職にご協力をお願いして三月二十八日に研修会を開催する事とし、事前に下見・見学をすませました。

三月上旬には藤本組長様より案内状も各寺院へ発送されすべては順調に進んでおりましたが、ご承知の通り三月十一日に至り東日本大震災の発生により事態は一変致しました。その後の停電、電車の間引き運転、余震により研修会は中止の止む無きに至りました。

この間突然の中止により阿弥陀寺様初め、関係の皆様方に大変ご迷惑をお掛け致しました事をこの紙面をお借りして、深くお詫び申し上げます。

また、今年度の当研修会は仏教壮年会連盟と合同にて十二月十七日（土）に開催。ご講師には、筑波大学名誉教授今井雅晴氏をお招きして、盛大に開催致したいと存じます。

仏教婦人会

東京教区仏教婦人会連盟多摩組代表

紋谷智子

世界仏教婦人会大会から

今年五月の十五・十六日に京都で開かれた第十四回世界仏教婦人会大会に出席しました。この大会が日本で開かれるのは十三年ぶりとのこと。世界各国からご参加くださった四千人もの方たちとの得難い二日間でした。

ハワイのヒロ別院婦人会の方と同席し、いろいろなお話をお聞きました。お祖父様の時代にハワイに移住し、仏縁を得て今日のあること。本当に頭が下りました。

また、東日本大震災から二カ月というところで、いのちの大切さをあらためて考えるとともに、私たちに何ができるかをみなさんと語り合いました。

地震の発生時、私はちょうど築地本願寺での東京教区仏教婦人会の会合に出席していました。会議は中断、みな急いで帰路に

つきました。私は帰る途中で交通機関が動かなくなり、帰宅難民になって、四谷中学校の体育館で交通再開を待ちました。ダンボールを敷き、毛布が配られ、寒さをしのぎ、運転が再開したのは深夜。家にたどりついたのは翌日早朝のことでした。それから半年が過ぎ、まだまだご苦勞なさっている方が多くいられます。うちのご近所にも、親類を頼って身一つでみえている八十四歳のご婦人がいらつしやいます。人は重い荷物を背負って人生を歩いていきます。今年は親鸞聖人のご苦勞がより偲ばれる年となりました。

門徒推進員協議会

門徒推進員 麻木純三郎

多摩組門徒推進協議会は、正善寺の辻さんが得度しメンバーから外れましたが、新たに浄弘寺の西野さんが加わり、十一名の門徒推進員で活動しています。これまでの活動状況をご報告します。

(1) 読書会の実施

一昨年度から始めた「正信偈を読む」（靈山勝美師）の読書会は順調に進んで、毎回有意義な話し合いを行い、来年三月に終了する予定です。

(2) 東京教区門徒推進員協議会

一泊研修会
教区内の門徒推進員を対象とした一泊研

修会を毎年実施していますが、昨年は多摩組が企画実施を担当し、関係するご住職方のご支援を得て、盛況のうちに終了しました。

一日目は、府中のホテルで法話会。照恩寺住職山本豊浄師より「聞即信」をテーマにお話しを頂きました。その後、各組の活動状況について意見交換を行い、夜の懇親会で交流を深めました。

二日目は明西寺に移動し、東京教区山本教務所長より、「親鸞聖人七百五十回大遠忌法要をお迎えして」をテーマにお話しを頂きました。

これを受けて「門信徒推進員として大遠忌法要にどう取り組むか」をテーマに、全員で話し合いを行い、実りある研修会を終りました。

(3) 連続研修会の支援・協力

「多摩組第八期連続研修会」（連研）について、一昨年より引き続き支援協力を行い、昨年十二月盛況に終了しました。修了者三十一名の内から、すでに数名が中央教習を受講しており、門信徒推進員の仲間が増える予定です。

引き続き来年度から実施予定の「第九期連続研修会」を支援協力致します。

(四) 千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要への参加
毎年九月十八日、多摩組門徒推進員協議会として参加しています。今年も参加しました。

これからも、各寺院・多摩組の発展のために、多摩組門徒推進員は積極的に活動していく予定です。

中ブロック門徒子弟研修会 サマーキャンプ in おおつき



(「合掌!」「食前の言葉!」)

本年のサマーキャンプ(中ブロック門徒子弟研修会)は、八月十八日から十九日の一泊二日で、何度もお世話になっている、大月市の「金の森山荘」をメイン会場に、開催いたしました。

参加の小学生は四十二名、OB・OGの中学生から大学生を含め、スタッフ三十八名の合計八十名での開催となりました。

はじめに、圓福寺様にて、新門さまのご臨席のもと、開会式を行いました。

何度も参加してくれている子供たちは、大きな声で、讃仏偈のお勤めや、真宗宗歌を歌ってくれました。

バスで大月へ移動し、昼食後、さつそく敷地内を流れる川で川遊び。

今年最後の猛暑日ということもあって、子供たちは大はしゃぎ。例年、少し遊ぶと、寒くなつて川から上がってくる子供たちも、今年の猛暑のせいで、いつまでも楽しそうに遊んでいて、スタッフの方がダウンしそうな程でした。

夕食は、恒例のバーベキューを、班ごとに火を囲み、お腹一杯いただきました。

夕食後は、キャンプファイヤーで歌ったり踊ったり。

一日たっぷり遊んだので、子供たちはいつになく、ぐつすり眠っていました。

翌日、まずは、おあさじから始まります。お勤めの調声は、子供たちにやっても良かったです。法話も、静かに聞くことができていました。

朝食後、お土産作りです。敷地内の竹を切らせていただき、コップ作りをしました。好みの大きさの竹を選び、紙やすりで飲み口などを滑らかにします。マジックなどで、色をぬつたり絵を描いたり、オリジナルのコップが出来上がりました。

昼食後、福正寺様へ移動し、閉会式です。お勤めの後、ご住職様のご法話をいただき、修了証やお土産を受け取り、閉会です。バスを待つ間、福正寺様よりアイスをいただき小休止。

その後は一路、調布へ向かいました。多少、渋滞もありましたが、無事、圓福寺

様へ到着し、解散。

いろいろな学年と班を作り、短い間ですが、一緒に過ごすことで、自然と上の学年の子が下の学年の面倒を見たり、はじめは不慣れなお勤めも帰るころには、上手にできるようになったり、有意義な二日間だったのではないのでしょうか。

リピーターも多いので、また来年、子供たちの笑顔を楽しみに、企画を考えたいと思います。

(圓城)



(福正寺本堂に全員集合)

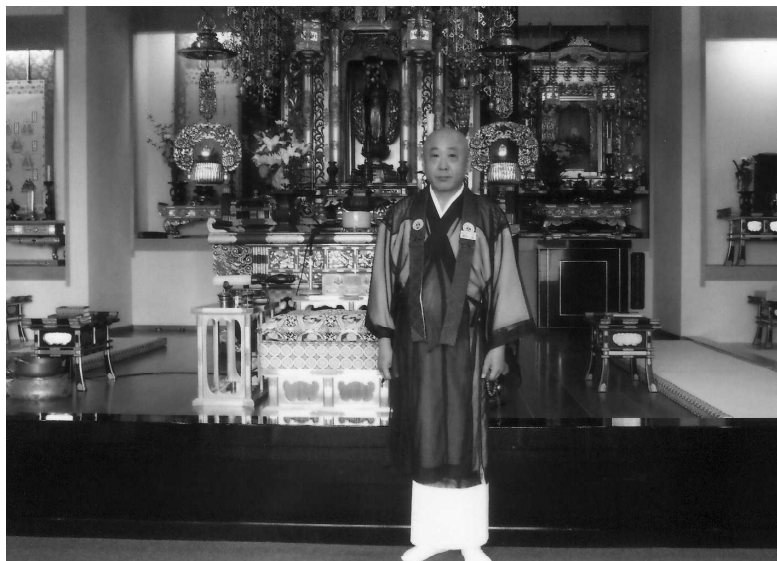
住職に聞きました

お寺を訪ねて

圓福寺(調布市国領)

今回は、調布市国領町にある本誓山無量寿院圓福寺をお訪ねいたしました。

圓福寺は、京王線布田駅近くの旧甲州街道沿いの商店街の並びにあります。境内は旧甲州街道から布田駅裏まであり、更に墓地は布田駅の反対側にあります。これは、戦前の京王線布田駅新設によって、この様になったそうです。



圓福寺 藤本孝彰住職

開基は開山和尚で、この方は北条泰時の弟である開寿丸にあたります。創建時には鎌倉切通しにありましたが、鎌倉幕府の崩壊と共に、家臣の荻窪氏等と多摩川沿いに移り、慶長年間に現在地に移りました。

藤本住職によれば、以前は北条姓を名乗っていたとのことでした。

江戸時代には圓福寺手習い塾、明治には私塾江北学校や私立江北尋常小学校を開設していたとのこと。祖父、父親も教員で、藤本住職も武蔵野大学の職員として長く教育に携わってこられ、教育と深い繋がりがあのお寺です。

第十六代目の藤本住職は多摩組組長の立場にありますが、副組長時代を含めると、約十七年の長きに亘り多摩組の発展を支えてこられました。また築地本願寺雅楽会副会長として、千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要や東京教区主催の諸法要に協力され、ご活躍をされておられます。住職のお考えは世間の変化が早すぎるので、自分のお寺ではゆっくりとした時間を作り、その中でお寺を見直す様に心掛け、調和を大切にしたいとのことでした。

現在お寺では彼岸会を中心に、布教活動をされておられますが、鎌倉時代からご縁のある御門徒さん方も、近くにかなりおられるとのことでした。

藤本住職はテキパキと物事を進めてこられた方なので、これからも引き続き多摩組全体をリードして下さるものと確信をし、また圓福寺の発展を念じながら、お寺をあとにしました。

(麻木・佐藤・辻)

なぜ？なに？

Q&A

Q 「念仏者として、原発とどう向き合うべきでしょうか？」

A 原子力エネルギーは、現在国の電力の三割を担っています。資源の乏しい日本にとっては、低コストでたくさん電力を作ることの出来る原子力は、「夢のエネルギー」と言われてきました。しかし、三月十一日に起きた東日本大震災によって、福島第一原発が重大な事故を起こし、周辺に住む多くの人々が避難を余儀なくされ、その影響は人体や農・畜産物を始め、さまざまなところに及んでいます。

原発を五十数機も作るほどの多大な電力需要を生み出したものは何でしょうか。それは「もっと便利に、もっと豊かに」と願う私たちの欲望(煩惱)です。

福島第一原発の事故をきっかけに、自分の生き方を見直そうという人が増えました。大遠忌法要の中でご門主さまは「限らない欲望と、限りある知恵を抱えた凡夫であること、ともに支え合って生きる世の中であることの自覚を深める大切な時期」とお示しになりました。親鸞聖人が「煩惱具足の凡夫」と示されたのは誰のことか、「恥ずべし、痛むべし」とはどういうことか。よくよく我が身に引きかけて味わいたいものです。

(藤原)

西本願寺（京都・本山）

〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル本願寺門前町

電話 075(371)5181

FAX 075(351)1211

本願寺築地別院（築地本願寺）・東京教区教務所

〒104-8435 東京都中央区築地3丁目1番1号

築地別院電話 03(3541)1131

教務所電話 03(3541)1666

東京教区多摩組寺院所在地

調布市

光徳寺（こうとくじ）〒182-0003
調布市若葉町1-38-27
TEL03(3300)6431 FAX03(5384)3344
(法座：不定期 お問い合わせ下さい)

明西寺（みょうさいじ）〒182-0003
調布市若葉町1-43-5
TEL03(3300)1901 FAX03(3300)2681
(法座：10日前後婦人会 1.4.8月壮年会)

延浄寺（えんじょうじ）〒182-0006
調布市つつじが丘2-30-1
TEL03(3326)7337 FAX03(3326)5037
(法座：不定期 相談日第1日曜日午後予約)

長専寺（ちょうせんじ）〒182-0033
調布市富士見町1-35-4
TEL042(482)3411 FAX042(498)1105
(法座：不定期)

西照寺（さいしょうじ）〒182-0003
調布市若葉町1-39
TEL03(3300)7734 FAX03(3300)7794
(法座：毎月8日・第4土曜 親鸞会)

光西寺（こうさいじ）〒182-0003
調布市若葉町1-44-2
TEL03(3300)5054 FAX 同左
(法座：不定期)

光源寺（こうげんじ）〒182-0006
調布市西つつじが丘2-30-11
TEL03(3300)0881 FAX03(3308)6289
(法座：隔月奇数月 お問い合わせ下さい)

覺證寺（かくしょうじ）〒182-0033
調布市富士見町1-35-5
TEL042(482)5556 FAX042(480)0166
(法座：第1土曜日・学習会 第2火・水頃)

正善寺（しょうぜんじ）〒182-0003
調布市若葉町1-42-5
TEL03(3300)6064 FAX03(3300)6687
(法座：第1日曜日(1日なら8日))

安養寺（あんようじ）〒182-0003
調布市若葉町1-44-5
TEL03(3307)5605 FAX03(3307)5496
(法座：第1日曜日)

圓福寺（えんぶくじ）〒182-0022
調布市国領町1-10-11
TEL042(482)7955 FAX042(481)4734
(法座：不定期)

国立市

應善寺（おうぜんじ）〒186-0002
国立市東2-2-1
TEL042(572)0043 FAX042(572)0148
(法座：毎月1日・16日)

立川市

光西寺（こうさいじ）〒190-0021
立川市羽衣町3-20-16
TEL042(522)3413 <http://www.kousaiji.com/>
(法座：毎週金曜晩又は土曜昼 各種仏教講座)

小平市

照恩寺（しょうおんじ）〒187-0041
小平市美園町3-23-20
TEL042(341)2935 FAX042(347)4122
(法座：毎月13日・第1土曜・第4土曜)

青梅市

浄弘寺（じょうこうじ）〒198-0036
青梅市河辺町8-19-8
TEL0428(32)1769 FAX0428(32)2010
(法座：第3土曜日)

八王子市

専念寺（せんねんじ）〒192-0063
八王子市元横山町2-14-24
TEL042(644)3491 FAX042(648)6087
(法座：隔月1回 お問い合わせ下さい)

誓願寺（せいがんじ）〒193-0816
八王子市大楽寺町209-5
TEL042(651)0073 FAX042(651)6183
(法座：第3木曜日・毎月10日大楽会)

光照寺（こうしょうじ）〒192-0912
八王子市絹ヶ丘3-8-1
TEL042(635)3754 FAX 同左
(法座：不定期)

本光寺（ほんこうじ）〒1923-0832
八王子市散田町4-40-10
TEL042(664)2196 FAX042(663)2501
(法座：仏教講座 第3金曜日)

延立寺（えんりゅうじ）〒193-0802
八王子市犬目町681
TEL042(654)2429 FAX042(654)6930
(法座：第4月曜日)

大恩寺（だいおんじ）〒193-0943
八王子市寺田町1085
TEL042(668)0889 FAX042(668)1825
(法座：第2土曜・第4日曜・第1土曜(婦人会))

町田市

圓成寺（えんじょうじ）〒194-0004
町田市鶴間1210
TEL042(795)0181 FAX042(795)0444
(法座：毎月28日)

圓成寺出張所（えんじょうじ）〒194-0035
町田市忠生3-24-13
TEL042(792)3007 FAX042(792)3006
(法座：毎月10日 休日なら翌日)

町田布教所（まちだふきょうじょ）〒195-0063
町田市野津田町2534-20
TEL042(737)3236 FAX 同左
(法座：第2土曜・23日前後の平日)

多摩市

阿弥陀寺（あみだじ）〒206-0013
多摩市桜ヶ丘1-24-2
TEL042(375)8055 FAX042(337)4889
(法座：年3回・毎月28日 明宝会・毎月15日前後
極楽トンボ会)

稲城市

玄忠寺（げんちゅうじ）〒206-0822
稲城市坂浜878-6
TEL042(331)3655 FAX042(331)3511
(法座：第3日曜日)

(法座へお出かけの折には、必ず電話にて日時をご確認の上、お出かけ下さい。)